

令和5年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立宍道中学校

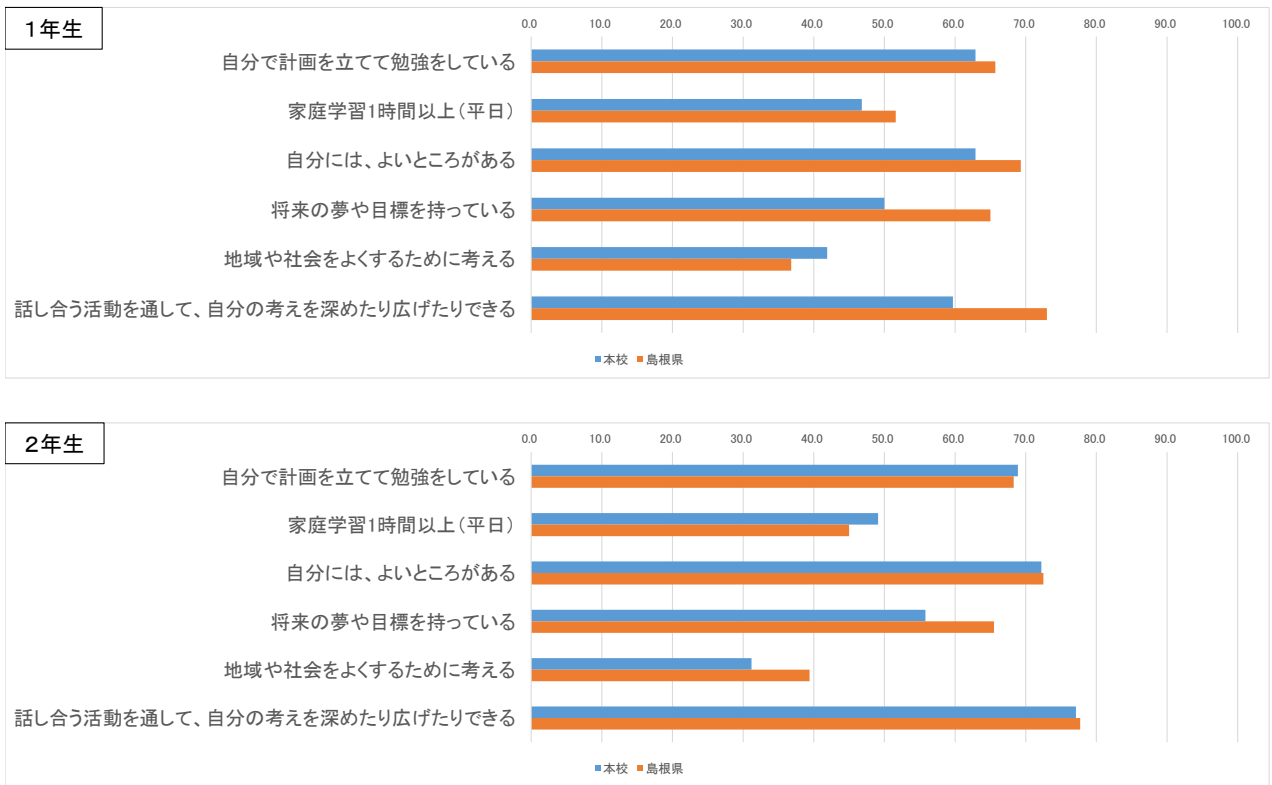
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○全国平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況である。特に、「我が国の言語文化に関する事項」については、全国平均を大きく上回っている。 ●「情報の扱い方に関する事項」や、「説明的な文章の内容を読み取る」ことについては、全国平均や目標値を下回っている。情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈することについて、重点的に取り組む必要がある。	○全国平均とおおむね同程度である。「話すこと・聞くこと」については良好で、特に「論理の展開」に注意して、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」という設問については、全国平均や目標値を大きく上回っている。 ●「説明的な文章の内容を読み取る」ことや、「情報の扱い方に関する事項」については、全国平均や目標値を下回っている。「情報の扱い方に関する事項」は、昨年度全国平均を上回っていたため、2年次で新たに求められる「目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈する」ための力を付ける必要がある。
数学	○正負の数の減法、反比例の表からの立式、比例のグラフの読み取りが全国平均を上回っている。 ●かっこのついた一次式の減法、分数を使った四則や立式、分数が解になるものや、文字式に関する問題については、全国平均や目標値を下回っている。今後は、分数を数値として捉えるのではなく、分数の意味理解を深められるように、授業や課題等でも取り扱っていきたい。	○角の大きさを求めたり、1次関数のグラフから情報を読み取り、グラフを描いたりする問題や、連立方程式を利用した問題や連立方程式の意味合いなどの理解については、全国平均や目標値を上回っている。 ●単項式の乗除や分数を含む多項式の計算、一次関数のxの増加量からyの増加量を求めることについては、全国平均や目標値を下回っている。今後は、文字や分数に対する苦手意識を取り除く必要がある。また、1次関数のグラフの交点を利用した問題や、数学的に説明する問題など、学習した内容を活用して解く問題を授業や課題等でも積極的に取り入れていきたい。
英語	○長文の読み取り・並べ替えの問題・英作文等書くことに関しては島根県の平均正答率を上回っている。 ●聞き取り問題や語彙の知識理解を問う問題・さまざまな英文の読み取りなどが島根県の平均正答率を下回っている。英文を聞いて要点をつかむ学習を積極的に取り入れていきたい。また、教科書の本文を十分に理解し、語彙を増やしたり、さまざまな英文に多く触れることで読解力を身につける必要がある。機械的に覚えるのではなく、文法の構造をしっかりと理解できるような活動も取り入れていきたい。	○短文問題・長文の読み取り・3文以上の英作文に関しては、島根県の平均正答率を上回っている。 ●聞き取り問題や英文の並べ替えの問題、さまざまな英文の読み取りなどが島根県の平均正答率を下回っている。英文を聞いたり、さまざまな英文を読んだりして要点をつかむ学習を積極的に取り入れていきたい。また、英文の構造を十分理解していない生徒のために、並べ替え問題や穴埋め問題、英作文などさまざまな英文の構造をもう一度復習していく必要がある。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○地域の行事に積極的に参加しており、地域の活動に対する関心が高い。 ●目標をもっている生徒が少なく、それが家庭学習時間の少なさや、学校生活における態度にも影響していると考えられる。話し合い活動を通して、考えを広げる取組を行い、将来に対する目標につなげていきたい。	○自分の将来の夢や目標をもっている生徒が、昨年度より13%増加した。総合的な学習や学級活動での取組が効果的だったと思われる。話し合い活動が～の項目も9%増加したのは、修学旅行や生徒会での取組が影響していると考えられる。 ●家庭学習時間は県平均は上回っているものの、昨年度より19%減少した。塾に通う生徒が増えたため家庭で一人で勉強する時間が減ったと感じる生徒がいると考えられる。家庭で一人でもより良い学習ができるよう指導していく必要がある。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R5学力調査受検者数】

1年生

62

名

2年生

61

名

(欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)